

- 第17回単位PTA会長会… 2～3
- 第70回日P山形大会…… 4～5
- PTAかわら版…………… 6～7
- 第55回東北P富谷黒川大会PR… 8
- 編集後記…………… 8

## 3年ぶりに開催された塩竈みなと祭

令和4年7月18日に塩竈みなと祭陸上パレードが3年ぶりに開催されました。パレードでは、「よしこの塩竈」の曲に合わせて、市内11の小中学校が趣向を凝らした振り付けを披露しました。

塩竈市立杉の入小学校では、振り付けは6年生が考え、参加を希望する下級生に振り付けを教えます。この活動を通して、最上級生としての自覚や愛校心が大きく育っていると感じます。当日は、各校のPTAの保護者も参加しバックアップをして、塩竈市全体が盛り上がる一日となりました。

通信員 安達 勉



# 第17回単位PTA会長会

令和4年8月7日(日)  
富谷市成田公民館

## 研修Ⅰ 宮城県PTA連合会について

宮城県PTA連合会について、浅野直美副会長から各自に配布された資料を基に次の説明がありました。

### 1) 宮城県PTA連合会の組織について

初めに、組織図を用いて地区別連合会や専門委員会、関連する団体についての説明がありました。

次に理事の役割として、1.地区連合会と宮城県PTA連合会との橋渡し役であること。2.理事会に出席して議案について審議する。という大きく2つの役割があるとの説明がありました。

特に2について、単位PTAで解決できない問題があった場合は、宮城県PTA連合会の問題として解決策を模索していきたいとお話がありました。

### 2) 宮城県PTA連合会の主な事業について

宮城県PTA研究大会、本日の単位PTA会長会、そして日本PTA全国研究大会山形大会（東北ブロック研究大会を兼ねる）などの説明がありました。

単位PTA会長会、そして山形大会については、日程の変更やコロナ禍の中、多くの方々から出席の申込みがあったことに感謝の言葉がありました。

### 3) 各種表彰、宮城県との連携について

宮城県PTA連合会では、年に1度、文部科学大臣表彰や日本PTA表彰など、各種表彰を行うと共に、広報紙コンクール、三行詩コンクール等の各種コンクールを開催し、PTA活動の活性化を図っているとの説明がありました。

また、県行政と連携して、「いじめ問題」、「不登

校問題」、「学力向上に向けての取り組み」も行なっているとの説明がありました。

最後になりますが、私自身、単位PTA会長会に出席して、多くの会長と情報交換をして、改めて皆様と共に宮城県の子どもたちの元気な姿のために微力ながら尽くして参りたいと思いました。

調査広報委員 佐藤 繁樹



あいさつをする門間浩泰会長



説明をする浅野直美副会長



会場の様子

## 研修 II

# 笑顔3割増しの

# PTA



講師  
元客室乗務員  
第一印象研究所  
代表 杉浦 永子 氏



単位PTA会長会の後半は、「笑顔3割増しのPTA」と題した第一印象研究所人材育成コンサルタントの杉浦永子先生の講演をお聞きました。

杉浦先生が元客室乗務員をされていたこともあり、飛行機の搭乗アナウンス風にスタートした講演は、「第一印象・印象管理」「アンガーマネージメント」「スピーチのコツ（ペップトーク）」の3つの内容についてのお話でした。

「第一印象・印象管理」については、PTA会長向け

の講演ということで普段から人前に立つ機会の多い参加者が多かったこともあり、表情や立ち居振る舞いなど「相手から見える行

動」によって第一印象が決まってしまうこと、また普段から笑顔を中心掛けることによって免疫力がアップしたり、笑顔が周りに伝染することによって人間関係が良くなることなど、大変参考になる内容でした。

続いての「アンガーマネージメント」については、怒りは人間にとっての自然な感情の1つであり、怒りのない人はいないこと、

また怒りをなくすことも不可能で自分の身を守る防衛のための感情であるというお話がありました。自分に

とって「こうあるべきだ」という譲れない思考があることを理解して、その上で相手を「まあいいか」と認められる範囲を少しずつ広げていく努力をすること。またその時の気分で認められる範囲が変化したりしないよう、一定に保つように気を付けることなどによって、怒りが生まれる頻度を減らすことができるというのは、普段子どもと接するときにも大切なことだと感じました。また、いろいろな立場の方と接する機会にも、そのことを心の片隅に置いておきたいと思いました。

「スピーチのコツ（ペップトーク）」では、ポジティブに相手の状況を受け止めて相手を勇気づけるトークについて教えていただきました。問題が起こった時にそれをポジティブに変換するコツや相手を激励する話し方を、実際に「トイレを汚さないで」を「綺麗にお使いください」に言い換えるなどの具体的な例を挙げて、参加者同士でトレーニングをして、笑顔に溢れたとても良い雰囲気の時間となりました。

コロナ禍でマスクをつけての生活が長くなるにつれて、ストレスを感じやすくなったり、表情が見えづらい分相手の感情を読み取りにくかったりする場面が多くなりました。

この講演を通して、目の表情や話をする際の言葉選び、自分の感情をよく知ることによって、まさに「笑顔3割増しのPTA」を目指していければと改めて感じました。

調査広報委員 笠原 由佳



お辞儀のポイント



スマホでスマイルチェック



講演中も笑顔の杉浦氏

# 第70回日本PTA全国研究大会山形大会 第54回日本PTA東北ブロック研究大会山形大会

令和4年8月26(金)・27日(土)

『人とひとのつながりを体感しよう!』

～あがらっしゃい精神を山形から～



山形県立村山産業高等学校「又新連(ゆうしんれん)」の躍動感溢れる徳内ばやし



日本PTA全国協議会  
会長 金田 淳

全体会は公益社団法人日本PTA全国協議会金田淳会長、築和生文部科学副大臣、吉村美栄子山形県知事、佐藤孝弘山形市長の祝辞を頂き、全体会記念講演・記念演奏会では、指揮者の飯森範親氏の講演と山形交響楽団の演奏を聴くことができました。

## 第8分科会 環境・安全

悩みに気づき、相談される関係性をつくる～子供たちを見守るために必要なものとは～

この分科会は、「安心できる居場所」を創るためには、保護者・地域・学校、それぞれ何が必要であるのかを考える分科会でした。

まず基調講演では、大阪市立大空小学校の設立から9年間校長を務めた木村泰子氏の講演で、大空小学校は「全ての子供たちの学習権を保証する」という理念のもと、教職員や地域の人たちと共に障害の有無に関わらず、全ての子供たちがいつも一緒に学び合ってきたこれまでの実体験を話

されました。

木村氏は校長の役目は繋がることのできない人のためのコーディネーターであり自分の好きな学校創りを掲げ、不登校にさせない学校創りに励み「悩みを持った子供たちが相談できる関係性をつくるために必要なこと」を常に考えながら学校生活を楽しんでいたと話されました。

その中でも木村氏が一番印象に残っている少年とのエピソードを話されました。その少年は家族から育児放棄をされ、心を閉ざし、誰にも相手にされない少年でした。それでも木村氏や大空小学校の地域サポーターで普段から何かあれば「大丈

夫か？何か困っていないか？何かやれることはないか？」と寄り添い、声掛けを積極的にして大人との関係性を保つよう行動しました。すると少年が徐々に心を開いていき「将来の夢は学校の先生になり、この地域に家を構え、地域の皆さんへ恩返しをしたい」と話したと言います。少年から見ればここ(大空小学校)が自分の「居場所」なんだと実感したのであろうと木村氏は話されました。

その後のパネルディスカッションでは当連合会副会長の浅野直美氏を含めた4名が登壇し「子供たちを守るために必要なのは？」をテーマに討議が行われました。その中



パネリスト  
浅野 直美副会長(宮城県)

でキーとなったのがやはり「居場所」創りでした。4人のパネラーの経験談から共通する点は

- ①「いつも子供を真ん中に」
- ②「話をする・聞く」
- ③「褒める・認める」

この3つが「安心させる居場所」創りに必要なのではないか。と教わった分科会となりました。

調査広報委員長

月岡 正博

# 全体会記念講演 記念演奏会



講師 飯森 範親 氏

「一本のタクト」は、人のこころを豊かに幸せにするアイテム  
ライブでしか味わえないお話と演奏をあなたに…



講師 飯森 範親 氏



観客を魅了する山形交響楽団の演奏

飯森氏の記念講演で、「一本のタクト」は、人のこころを豊かに幸せにするアイテム ライブでしか味わえないお話と演奏をあなたに…と題して、当時まだ知名度の低かった山形交響楽団を、日本を代表するオーケストラの一つに数えられるまでに至った過程について聞くことができました。

「強い信念」、「人とのつながり」、「人との縁の大切さ」、「諦めない精神を保つ」などのお話はとても勉強になりました。

山形交響楽団の演奏はとても迫力があり、指揮者の「一本のタクト」がオーケストラの演奏者一人ひとり、聴衆者の一人ひとりを卓越した唯一無二の空間で紡いでいきコロナ渦でなかなか生演奏を聴く機会が難しかった今日、大変新鮮に感じることができました。

来年の日P大会は広島県。今回の大会は隣の山形県での開催でしたので、足を運びやすく大変勉強になりました。機会があればまた参加したいと思います。

調査広報委員 池田 寛幸

## 演奏プログラム

- スッペ／喜歌劇「軽騎兵」
- ドヴォルザーク／交響曲第9番 ホ短調 作品95
- 「新世界より」第2楽章
- ドヴォルザーク /スラブ舞曲 作品72-2
- ブラームス／ハンガリー舞曲 第5番
- シベリウス／アンダンテ・フェスティエヴォ
- ベートーヴェン／交響曲第7番 イ長調 作品92 第1楽章
- アンコール ヨハン・シュトラウス1世／ラデツキー行進曲



# かわら板



## 角田市

更なる充実を目指して

通信員 池田 寛幸

営」でした。また続いている研究討議は「子ども  
の豊かな心をはぐくむ学校・家庭・地域社会の  
協働のあり方」地域支援活動をとおして「を  
主題として、大河原教育事務所の松崎隆社会教  
育指導員をコーディネーターに据え、話題提供  
として「学校教育」では横内彰丸森小学校主幹  
教諭、「家庭教育」では安部信次氏、「地域活  
動」では伊藤和花氏によるディスカッションが  
行われました。

去る10月1日、大河原教育事務所管内「社会教育推進大会・協働教育研修会」が開催されました。  
新型コロナウイルスの影響で、3年ぶりの開催となり運営側は大変だったと思います。  
講演は大河原教育事務所朝日田顕志副参事による「地域ととも



## 白石・刈田地区

子どもたちを取り巻く環境から見える課題

通信員 林 秀樹

白石・刈田地区父母教師会連合会では、子どもたちを取り巻く環境の問題・課題として「スマートフォン」の普及と学力低下の「関係性」と題して研修会を開催しました。  
東北大学加齢医学研究所助教授の神浩平先生をお招きして「生活習慣の改善と学力の「関係性」について」自己管理能力の大切さという演題で講演をいただきました。  
スマホの使用率が上がれば学力低下に繋がります。ただ、与えなければ学力向上に繋がるといふと、必ずしもそうではなく、「自己管理」ができることが学力向上に大きく寄与していることがデータで示されています。また、本を読むことが大切さについては、辞書を引くこととスマホで検索するを比較した時、辞書を引いた方が記憶に残りやすいことを科学的に教えていただきました。  
我々が手本となり、子どもたちに「自主・自律」の芽を開かせたいと思います。

## 岩沼市

今年こそは開催したかった

通信員 熊谷 俊彦



毎年夏休み明け最初の日曜日、校内美化作業をPTAが主催で行っています。しかし昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で夏休み前に中止の判断。今年度は雨天の為、当日の朝に中止の判断をとり保護者へ一斉メール配信。残念無念でした。  
それでも安全環境部員さんたちは月に一度安全の日、立ち当番を行い下校児童を見守り、広報部員さんたちは広報紙を発行するため部会を開き一生懸命話し合い、ベルマーク部員さんたちは毎月集まりベルマークの切り取り・仕分け・発送をしています。  
コロナ禍でも何ができるか話し合い、活動ができればと思っています。

# PTA



柳津小



横山小

## 登米市

令和5年4月「登米市立津山小学校」の開校にむけて

通信員 山内 郁雄

津山杉と矢羽根模様の木工品で知られる登米市津山地区には、柳津小学校と横山小学校の2つの小学校があります。2校は再編され、来春新しい小学校が開校します。  
両小学校と津山中学校のPTA会長を含む関係者で組織する津山地域開校準備委員会では、令和3年11月から開校にむけ協議・検討をしています。  
その中で、横山小学校の「みどりの少年団」は新校でも継続することに全員一致で決定。これからも植林体験を通して地域の良いところを学んで欲しい気持ちはみんな同じです。

## 栗原市

当たり前の日常を願って

通信員 照井 崇尚

栗駒山、栗沢地区の大地ヶ森(580m)のすそ野に立地する栗原市立鷺沢小学校です。今年度は、「子どもたちのために、今できることをフットワーク良く取り組む。」をモットーに活動をしています。運動会等の学校行事の手伝い、新型コロナウイルスの影響で中止になった「奉仕作業」の時は、役員有志が少人数で校内の除草を行いました。元気に校庭で遊ぶ子どもたちのために、今できることに取り組んでいます。  
早く、当たり前の日常に戻り、子どもたちが元気いっぱい活動できる日が来ることを願って。



## 大崎市

閉校、そして新たな一貫校へ

通信員 山本 耕平

大崎市では少子化による学校の統廃合を機に、古川西中学校、西古川小学校、志田小学校、東大崎小学校、高倉小学校の5校が1つとなり、小中一貫校として古川西小中学校が開校します。  
令和5年度の開校に向け、小学生と中学生が交流し、親睦を深める目的の小中合同学習を15回計画しています。  
5月に自己紹介やお互いの学校紹介、中学校総合体育大会の壮行式を行いました。その後、一緒に授業を受けるなど、学校の垣根を超えた新しいつながりを作っています。

2学期には各校で閉校に向けたイベントも計画しており、子どもたちと一緒に保護者や先生、地域での思い出をたくさん作りながら、4月の開校に向けて期待を膨らませています。





# お知らせ

<http://www.miyagi-pta.gr.jp/>  
☎022-295-9581・9590

いちごいちえ

一期一笑を大切に

第55回東北ブロック研究大会富谷黒川大会

実行委員長 佐藤 純一

今年の8月に山形県において全国大会を兼ねた東北ブロック研究大会が開催されました。

3年ぶりの対面開催は、改めてPTAの意義とは何かを示唆する大会となりました。

私たち宮城県PTA連合会は、来年10月14日と15日に仙台市の北隣にある富谷市と黒川郡の3町村で開催される同研究大会『富谷黒川大会』に向け、準備を進めているところです。

コロナ禍となって2年間は大会の中止やリモートでの開催となり、人と人とのつながりを大切にするPTA活動において重大な危機に直面していました。誰もが後ろ向きになる中で、山形大会で「コロナ禍での対面開催」を実現しました。富谷黒川大会でもウィズコロナで、素晴らしい大会にできるように実行委員会一同で努めていきたいと思えます。

富谷黒川大会は1日目に分科会を行い、富谷市で2分科会、大和町、大郷町、大衡村の3町村でそれぞれ1分科会を担当し5つの分科会を計画しています。現在、魅力ある分科会にできるように講師の方々と調整を行っているところです。

2日目は全体会を予定し、開会行事を始め、地域の方によるアトラクションを披露し、若い世代の多い地域性や宮城らしさを表現できればと考えています。また、記念講演も誰もが聴きに來たくなるような魅力あふれるものになるように検討しているところです。詳細につきましては一次案内や二次案内の際にご紹介できればと考えています。

富谷黒川大会は「東北一心（とうほくいっしん）新たな時代へ 一期一笑（いちごいちえ）～未来を切り開け！持続可能な地域づくり・PTAづくり～」と題して開催します。コロナにより寸断された人と人とのつながりを大切に、笑い合える素敵な出会いを作れたらと考えています。さらに地域の地場産品なども紹介できるようなブースを設けて、地域の活性化にも貢献することで持続可能な地域づくり・PTAづくりにつなげていけるように進めております。東北各地の皆様のご来場を心よりお待ちしております。



佐藤 純一 実行委員長（中央）



## 編集後記

通学途中の子どもたちが、車が行き交う歩道を渡ろうと「右見て、左見て」停車するのを待っている。通勤の道中、一時停車して子どもたちを促すと、道路を渡り終えて振り返り皆でお辞儀をする光景、帽子を被っている児童は素早く脱帽して一礼をする姿に、とてもほっこりします。

この地域の小学生も中学生も「ありがとう」のお辞儀をする「慣習」が身に付いているのです。親になって初めて気づけた、地域に根付いている「慣習」の様に、歩みを止めることなくPTA活動ができることを願っています。

調査広報担当副会長 尾坪 博史



環境に配慮した用紙・インクを使用しています。

PTAみやぎ第188号 令和4年11月30日発行 年間購読料150円  
発行所/宮城県PTA連合会・印刷/有限会社 南郷印刷